

「若年性認知症」とは?

認知症は、加齢とともに発症するリスクが高くなる疾患です。しかし年齢が若くても発症することがあり、65歳未満で発症した場合は「若年性認知症」といいます。働き盛りの世代にも起こる認知症は、本人だけでなく家族の生活に与える影響は高齢者の発症に比べ大きく、社会的にも重大な問題となっています。

おだやかだったはずの夫が、まるで別人のようなふるまいをする。母が得意だった料理を作らなくなる。同僚が約束を守らない、忘れるなど、得意先からのクレームが増えた…。

こんな疑問や不安をお持ちの方、ひとりで悩まず私たちにご相談ください。

「認知症介護研究・研修大府センター」は、若年性認知症の研究と支援に取り組んでいます。

「認知症介護研究・研修大府センター」は、国の補助事業として平成13年4月に社会福祉法人 仁至会に設置された認知症介護の研究・研修を行う施設です。

平成21年10月1日、厚生労働省の「認知症の医療と生活の質を高める緊急プロジェクト」に基づいた若年性認知症施策の取り組みのひとつとして全国初の「若年性認知症コールセンター」が、当センターに開設されました。専門的教育を受けた相談員が、誰もが気軽に相談できるコールセンターを目指して、若年性認知症の人、一人ひとりの状態に応じた支援を行っています。

相談は無料です。下記フリーコール(無料)まで

匿名で受けます

若年性認知症コールセンター 0800-100-2707

月~土曜日(年末年始・祝日除く)
10:00~15:00



社会福祉法人 仁至会
認知症介護研究・研修大府センター
〒474-0037
愛知県大府市半月町3丁目294番地

若年性認知症コールセンター

検索

個人情報は
厳守します

若年性 認知症 コールセンター



<http://y-ninchisyotel.net/>

働き盛り世代の発症は 周辺にも大きな影響を及ぼします。



配偶者への影響

配偶者が発症した場合、家事や子育てなどの役割が十分に果たせなくなることがあります。時に親世代の介護と重なることもあります。経済的負担のほか、家事や介護の負担が一方にかかってくるのが考えられます。



子どもへの影響

子どもにとっても心理的影響は大きいです。中学生・高校生では自分自身も大きく成長していく時期でもあり、親を頼りにする時期でもあります。親の変化に戸惑いを覚えたり、進学や就職、結婚などに不安を感じるがあります。



仕事への影響

認知症を発症した場合、記憶力や判断力の低下によって、ミスが増えたりして、仕事に支障が出てくると考えられます。診断が遅れたり、上司や同僚になかなか気付いてもらえない場合は、配置転換、勤務時間の調整などの対応が遅れてしまいます。本人は仕事を続けたいという気持ちも大きく、精神的にとてつらい思いをすることになります。

Case1

Aさんの妻(54歳)はうつ病で、薬物治療をつけていましたが、よくなるどころか、症状はひどくなるばかりです。インターネットで症状を検索し「若年性認知症」を疑い、コールセンターに相談されました。



専門的な検査と診断を受けることができる医療機関の情報を提供しました。

Case2

Bさん(20歳)のお母さんは「若年性認知症」と診断され、病院での治療をしています。お母さんの症状は安定していますが、Bさんは、自分も遺伝によりいつか発症するのでは、と思うといたたまれずコールセンターに相談をされました。



原因となる疾患が多岐にわたることと共に、それぞれの疾患の研究状況についてご説明しました。

Case3

Cさん(58歳)は「若年性認知症」の発症で仕事を失うことはありませんでした。しかし、症状の進行により業務に支障が出て退職を迫られています。子どもの進学、家のローンなど経済的な不安もあり、ご本人からコールセンターにご相談がありました。



経済的支援をはじめとする社会保障についての情報をご案内しました。